

道央エリア担当より新年のご挨拶

北海道統括支店 道央エリア担当 浅沼 康之

新年あけましておめでとうございます。日頃より弊社製・商品に対し格別のご高配とご愛顧を賜り心より厚く御礼申し上げます。2020年を振り返りますと、新型コロナウイルスへの対応に終始した年でありました。飛沫感染を防止するために人と人との距離を保つ必要があり、弊社が重視してきたお客様との対話を重視した営業活動は、三密を避ける観点から電話や電子メールなどで行わなくてはならず、営農に関する講習会なども中止せざるを得ない状況となりました。十分な商品の説明や新しい営農技術などの情報提供が出来ず、多くのお客様にご迷惑をおかけすることとなりました。

一方、道内の生乳生産は順調に増加しております。新型コロナウイルスの影響による外出自粛の影響から、需要は大きな変動がありましたが、生産者団体と乳業が団結し、貯蔵が効かない生乳を一滴も廃棄しないことを社会的な使命として対応に当たり、最悪の事態は避けられました。酪農・乳業界が共通の思いを持ち、持続的に生産できる環境を維持したことで、日本の生乳生産の仕組みは世界に誇れる素晴らしいものであると痛感しました。

昨年は春先低温が続き、収穫時の雨天などの影響もあり、自給飼料の栄養低下が懸念されます。自然の力には逆らえませんが、影響を小さくすることは草地の植生改善を継続して実施することで可能と考えます。草地更新直後の牧草は、収量も多く乳牛の嗜好性も抜群です。植生改善を断続的に実施することで、乳牛にとって重要な粗飼料を安定的に確保することができ、酪農経営を持続的に安定させる方法と考えます。

世界経済の先行きは不透明であり、食料を輸入に頼れない時代になるかもしれません。改めて自給飼料を見直し、安心安全な粗飼料を基盤とした「酪農経営」が、限りある地球資源を循環させ、自然の力を活かしながら安定的に生乳生産を持続できる方法と思われま

す。弊社は、生産者の皆様と密着した製・商品並びに生産技術を開発し、ご提案させて頂くことで酪農経営への支援を行ってまいりたいと考えております。本年も農作業の無事とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。

道東エリア担当より新年のご挨拶

北海道統括支店 道東エリア担当 森山 淳也

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。

例年と違うコロナ禍での2021年、令和3年の幕開けは、初めてのことであり皆様の生活にも戸惑いと影響が出ていることとお察し申し上げます。いつもどおりの新年会も開催できない状況ではないでしょうか？昨今の今頃には全く予想できないことでありました。

コロナ禍により、人と人が集い話をすることが制約されると、こんなに不安な気持ちになるとは思いませんでした。場面においては、お電話させていただいたり、メール、FAXなどを活用して情報提供などさせていただきますので、何卒ご理解のほど賜りたくよろしくお願い申し上げます。またコロナ禍にて感染対策を講じたうえで、お客様とお逢いしてお話いただけることが、貴重なことだと感じています。

ご愛顧いただいている弊社の種子は、海外にて採種および生産しているものが大半であります。また飼料の原料も海外に依存している実情であります。世界各地でのコロナ禍において、物流の影響も懸念しております。必要な時に必要な資材がお手元に届くよう努めてまいります。

近年は気象変動が大きく、昨年は道東エリアにおいても8月後半から9月にかけて台風襲来が無く恵まれたものの、例年より高温高湿度でありました。本年はラニーニャの影響があるかもしれません。

弊社では、本年より牧草種子のチモシー草種で『マオイ』という品種を本格販売いたします。長らくご愛顧いただいた早生品種の『ホライズン』の後継品種となり、種子生産も順調で在庫も確保できていますので、自給飼料の品質改善にぜひお役立ていただければ甚大です。「土づくり、草づくり、牛づくり」による良質な北海道産の乳畜産物の生産に寄与させていただきたく、引き続き製・商品のご提案ならびに技術情報のご提供に努めてまいりますので本年もよろしくお願い申し上げます。

2021年・令和3年が皆様におかれましても、平穏な日々が早く訪れることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。